

がん患者の感染症アップデート

がん患者は、バリア障害や生体機能異常、免疫不全(好中球減少, 細胞性免疫不全, 液性免疫不全)といった易感染性の背景により, さまざまな感染症が問題となります。また, がん治療は大きく薬物療法, 手術療法, 放射線療法に分けられますが, なかでも薬物療法の進歩は目覚ましく, 患者ごとの丁寧なリスク評価が重要になっています。

本特集は, がん患者の感染症の基本と原因微生物の特徴を整理し, それらの理解を臨床現場でのコミュニケーションの質向上につなげることを目的としています。

はじめに, がん患者の感染症において考慮すべき特徴について概説し, 主な患者層である固形腫瘍患者と血液悪性腫瘍患者で問題となる感染症について取り上げています。また, 参考資料が限られているがん患者の微生物検査について要点を整理し, 最後に予防の観点から推奨ワクチンについてご紹介いただきました。本特集が, がん患者の感染症に対する理解を深め, 明日からの微生物検査に役立つことを願っています。

関谷紀貴(東京科学大学病院感染症内科)